

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 9 月 22 日

【評価実施概要】

事業所番号	2193300015		
法人名	有限会社 しましまハウス		
事業所名	しましまハウス 河合		
所在地	岐阜県飛騨市河合町稲越491-2 (電話) 0577-65-0075		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年9月8日	評価確定日	平成20年10月24日

【情報提供票より】 (平成 20 年 8 月 6 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	6.9 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	7,500~ 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 8 月 6 日 現在)

利用者人数	7 名	男性	2 名	女性	5 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 80 歳	最低 71 歳	最高	88 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	飛騨市民病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小高い山懐に抱かれて村の鎮守様と並んで建つホームは、廃校となった小学校の校舎であったものが、宿泊研修施設を経て、このホームの建物になった。水はけのよい山砂で整備された運動場は散歩には程よく、雨や雪の日はバレーボールのコートもとれる程の体育館で運動できる。玄関の下駄箱は住民が災害時に避難しても十分な数があり、スプリンクラーは新設され、調理室も浴槽も広く、居室の窓は二重サッシでエアコンが付いている。重要事項説明書には看取りができると明記されている。経営者は利用者と地域の人やお盆に帰省した人達と会える「盆踊り大会」の開催を検討しており、利用者は盆踊りやゲートボールで懐かしい人達と会えることを心待ちにしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	開設1年弱で、今回が初めての受審である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	開設1年弱でもあり、管理者と計画作成担当者が職員の意見を聞いてまとめた。毎月のモニタリング会議、毎週の会議、毎日のミーティングなどでも評価項目を運営や対応のチェック項目として、サービスの質の向上につなげるよう取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームにある体育館で、同法人が運営している他の2ホームとの合同運動会を開催した際に、3ホーム合同の運営推進会議を開催した。通常は、出席者の交通の便もあり、隔月に単独で開催し、ヒヤリハットや行事報告をしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	開設間もないこともあり、家族への連絡担当者を限定し、来訪時や電話・FAX・手紙などで頻繁に情報交換している。手紙やFAXは保管され、意見箱も設置され、外部苦情窓口も明示されている。運営推進会議には家族の出席が歓迎され、意見が言える状況にあり、出された意見や要望には前向きに捉え、取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	廃校校舎は、今でも地域の共有施設の様にして各種の行事やスポーツに運動場や体育館が使用されている。体育館が使われていない2階は災害避難場所として指定されている。周囲の草刈り奉仕活動や野菜等の差し入れはあり、近隣農家から小豆むきや選り分けの手内職を依頼されることもある。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「高齢や認知症により自立できなくなった利用者を、生まれ育った地域の思い出や生き立ち等を考慮しながら1人ずつの残された能力を探り、焦らず引き出し、余生を楽しく過ごしていただく」という理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は食堂などの見やすい場所に掲示され、会議でも趣旨の徹底が図られている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	廃校の鉄筋コンクリート2階建校舎は、今でも公営施設の様にして各種行事に運動場や体育館が使用されている。周囲の草刈り奉仕活動や野菜等の差し入れがある。利用者や地域の人やお盆に帰省した人達が集える「盆踊り大会」の開催を検討している。	○	「盆踊り大会」が地域交流の場となるようその実現に期待がもたれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者と介護計画作成担当者が職員の意見を聞いてまとめた。毎月・毎週・毎日の会議では評価項目を運営や対応のチェック項目として、サービスの質の向上につなげるよう、前向きに取り組んでいる。	○	次回からは、全職員が自己評価作成に参画し、この制度を一層有効活用していく意向があり、その姿勢に期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	同法人運営の他ホームとの合同運動会を開催した際に、3ホーム合同の運営推進会議を開催した。通常は、出席者の交通の便もあり、隔月に単独で開催し、ヒヤリハットや行事報告をしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	校舎、体育館及び備品などは市からの買い取りで、関わりは深く、継続的にその後も良好な関係にある。3ホーム合同の行事には、市からの参加もある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	開設間もないこともあり、家族への連絡担当者を限定し、来訪時や電話・FAX・手紙などで頻繁に報告・連絡・相談している。手紙やFAXは保管されており、「ホームたより」も発行している。契約書や重要事項説明書の見直しを作業中である。	○	見直した書類等は、すみやかに家族等に報告・説明されたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地元の職員が多く、利用者や家族が気楽に意見が言える状況にある。意見箱が設置され、外部苦情窓口も明示されている。運営推進会議には家族の出席を歓迎し、出された意見・要望等を運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	将来的には法人内他ホームへの異動はありうるが、開設1年以内であり、地元採用職員が多いため、異動は当面はない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地元の介護職には未経験の職員が多いため、研修体制は考慮されており、諸費用は法人負担であり、同法人経営の他ホームでの実地研修や外部研修も多い。3ホーム合同のビデオ学習も予定されている。	○	地元の職員は、地域性が理解しやすいといった利点もあるが、未経験者を育てる必要があり、そのための取り組みに期待したい。外部研修は立地条件から参加しづらい環境にあり、それをカバーするためにも、内部研修の充実を図られたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隔月で開催される市内グループホームの会議に出席し、また、同法人3ホームで情報交換を行っている。それ以外にも、他の事業所の運営推進会議に招かれて出席し、情報交換や交流に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験入居の後に、1ヶ月間の仮入居制をとっており、その後に正式入居となる。この期間に、職員や他の利用者、場の雰囲気に馴染めるよう配慮し、本人の安心感を得るよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	農家出身の利用者が多く、畑仕事の手順や山菜採りのコツなど、教えられる事が多い。グループホームを理解している近隣農家から小豆むきや選り分けの手内職を頼まれ、利用者は、職員以上の手際のよさを発揮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、普段の生活の中で、利用者の行動やしぐさなどから本人の意向を把握したり、利用者同士や職員とくつろいだ雰囲気の中で交わす会話から、本人の思いや希望を聞き取ったり感じ取ったりするように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は本人や家族の意向を取り入れ、計画作成担当者(ケアマネジャー)が中心となって作り、毎月1回行われるモニタリング会議、週1回の会議や毎朝のミーティングでも必要なつど、職員間で報告や話し合いが行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況に変化があった時には、出来るだけ家族も出席の上で協力医に相談し、介護計画を変更している。利用者概要書(フェイスシート)や個別介護記録の様式等について検討されている。	○	様式を検討され、職員が情報を共有しやすい環境整備に期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の希望による通院移送サービスや、元理容師の職員の手になる整髪が無料で行われている。ホームには仏壇があり、お盆には現役の僧侶でもある職員による読経で、供養が行われる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医が隔週に往診している。山村のため、自由に選択できるかかりつけ医が多くあるわけではないが、特別な場合は、通院介助も無料で行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師や看護師を活用し、家族の希望や主治医の判断があれば看取りを行うことを重要事項説明書にうたっている。	○	経営代表者が医師であり、職員に看護師がいるが、職員全員が不安なく対応できるように、「看取り」については、対応マニュアルの作成が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いに対する考えや、言葉かけ等の利用者の尊厳に対する配慮は適切である。資料の管理等は、旧小学校の職員室がそのまま使われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者中心の時間が送られている。「さしこ」「小豆むきと選別」「芋の皮むき」等、利用者の得意な作業に参加してもらうなど、かつての暮らしに近づけ、その人らしさを引き出している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者全員で作った野菜と外部の給食会社が配達した食材を使い、調理の下拵え・配膳・下膳などは、利用者の役割分担によって協力して行われている。	○	外部の配食サービスに献立も任せてあるが、食材や献立に関して、利用者の希望を聞いたり話し合う機会が欲しい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴が、温泉宿の大浴場のような大きな浴室浴槽で楽しめる。冬は浴室にも暖房器が持ち込まれる。冬場の温度管理や燃費効率の観点から、適度な大きさの浴室・浴槽への改造工事が検討されている。	○	浴室・浴槽の温度管理や燃費を考えれば、その維持は大変であろうと察する。また、浴槽が大きいと、利用者が不安定な姿勢になり、危険なこともあるので、その配慮が望まれる。検討されている改造に期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	戸外では畑仕事、室内では洗濯物たたみや生花なが楽しみである。時季には娯楽室にある仏壇を前に僧侶である職員の読経と法話もある。富山県の漁港にある回転寿司に遠出する事もある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	晴れた日は、水はけのよい山砂で整地された運動場で、雨の日は、時に地域の人が卓球を楽しむ体育館で、英気と体力を養う事ができる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は開放されているが、安全のため、残されていた学校の体育用品である可動式ネットがフェンスに設けられている。居室に鍵はなく、全体的に広々とした開放感がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	スプリンクラーを新設し、非常口・誘導灯も複数あり、冬季の停電時に備えて石油ストーブとマッチも常備した。利用者の緊急時必要情報をまとめた「救急グッズ」がある。ホームが地域の災害避難場所・施設に指定されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部の給食会社と栄養バランスやカロリー計算をして献立を作り、食材が持ち込まれ、調理は学校給食が作られたであろう広い調理室で職員や利用者によって行われている。利用者ごとに、大まかな必要カロリーを把握しようと検討している。	○	一人ひとりに必要な栄養量や水分量を把握し、利用者の健康管理に取り組みたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関下駄箱、調理室、浴室・浴槽、廊下、娯楽室、体育館、運動場等旧校舎の建物は、総てが大きくて楽しい。黒板の予定表はそのまま使われ、大きな額入りの「市民憲章」や「校歌」も壁にかかっているまま、残している。	○	食堂近くのトイレは1ヶ所によく混みあい、早めの誘導で利用者が重ならないよう工夫されているが、限界もあり、ポータブルで代用するか、改築するか等の対策を十分検討されたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全居室に冷暖房用のエアコンが設置され、窓は大きく、二重サッシである。ベッドや整理ダンスなどは、利用者の持ち込み品である。かつて電話受付業務をしていた利用者のために職員が昔の黒電話機を探し、持ち込んだところ、気持ち安定した例もある。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。